

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：17102
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2012～2014
 課題番号：24720333
 研究課題名(和文)1930年代トルコ共和国における公定歴史学の研究

研究課題名(英文)The Official Historiography in the Modern Turkey

研究代表者

小笠原 弘幸(Ogasawara, Hiroyuki)

九州大学・人文科学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：40542626

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、トルコ共和国の1930年代で推進された公定歴史学の検討をその目的とする。公定歴史学は、その極端なナショナリズム的性格によって世界的にみても類例を見ない存在であり、ナショナル・ヒストリー研究の貴重なケース・スタディを提供する。本研究では、まず公定歴史学の前提となるオスマン帝国末期の歴史学・歴史教育の検討を進め、しかる後に、先行研究において取り扱われていない、公定歴史学の重要な作品集である「トルコ史概要草稿」の収集・検討を進めた。それによって、公定歴史学の来歴と射程を一定程度明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This study treats the official historiography of the Republic of Turkey in 1930's. The official historiography, which had extremely nationalistic character, would be an important example for studying the national history. At first this study investigated the late Ottoman historiography and history education, which was regarded as the premise of the official historiography in the Republic of Turkey. Secondly "Musvedde of the General History of Turks," which was the important anthology of the official historiography, was investigated.

研究分野：アジア・アフリカ史

キーワード：オスマン帝国 トルコ共和国 歴史叙述 歴史教育 歴史教科書 公定歴史学 イスラーム ナショナリズム

1. 研究開始当初の背景

(1) 公定歴史学について

トルコ共和国では、建国初期の1930年代に、極端なトルコ民族的ナショナリズムに偏った「公定歴史学」が、建国の父ムスタファ・ケマル(・アタテュルク)によって提唱された。これによれば、古代にトルコ人の大文明が存在し、それが乾燥化によって崩壊した後、トルコ人が世界各地に移住し、世界の諸文明に影響を与えたという。その際、トルコ語が世界の言語の祖となったという「太陽言語説」すら唱えられた。

この歴史観は、現在の学問的な研究者から見れば「荒唐無稽な」主張であるが、当時のドイツ(ナチス・ドイツの反ユダヤ人史観)や日本(皇国史観)における歴史観の存在を考えると、一概に特殊な事例とは言えない。一方で、トルコ共和国公定歴史学が対象とする歴史的規模の大きさは、世界的に見ても類例を見ない広がりを持つ内容であるといえる。

(2) 公定歴史学研究の意義

公定歴史学は、トルコ共和国の初代大統領ムスタファ・ケマルの肝いりでトルコ共和国政府およびトルコ歴史協会のイニシアティブのもと推進され、トルコの歴史学界はもちろん、歴史教育においても取り入れられた。四巻本の高校教科書『歴史』はその典型的な例である。主な推進者としては、ムスタファ・ケマルの養女であるアーフェット・イナンが挙げられる。公定歴史学に反対したゼキ・ヴェルディ・トガンなど実証的研究者は学界を追放された。

公定歴史学は、ムスタファ・ケマル死後の1940年代からトーンダウンし、1930年代のように強力に推進されることは無くなる。また最近のトルコ共和国では、イスラーム系政党である公正発展党の指導課のもと、ムスタファ・ケマル・アタテュルクを批判する傾向が強まり、イスラーム的な価値観が強調される傾向にある。

しかしなお、公定歴史学は公式には否定されていないことから、その影響力は隠然たるものがある。トルコ共和国史を考えるうえで、公定歴史学とその歴史観を検討することは重要であると思われる。

また、ナショナル・ヒストリーのもっとも極端な形としての公定歴史学の研究は、トルコ研究のみならず、国民史研究のケース・スタディとして重要な知見を与えてくれるものと考えられる。

2. 研究の目的

(1) オスマン帝国末期の歴史叙述

本研究の目的は、まず、公定歴史学の前提となったオスマン帝国末期の歴史学・歴史教育の状況を明らかにすることである。具体的

には、近代オスマン帝国をタンズィマート期・アブデュルハミト二世期・第二次立憲政期の三時代にわけ、それぞれの性格を検討する。

(2) トルコ共和国公定歴史学

次いで、オスマン帝国末期の状況を前提条件として踏まえつつ、トルコ共和国における歴史学・歴史教育の状況がどのようなものであったかを、公定歴史学に焦点を当てて明らかにすることを試みる。共和国初期の歴史叙述は、公定歴史学が始まる1930年ごろを境に性格が変わるが、本研究では、より民族主義的な性格が強い1930年代について、主として論ずることとする。1920年代については、基本的には第二次立憲政時代の延長であるため、最低限度の検討を行うこととする。

3. 研究の方法

(1) 研究方法

本研究は、文献史料を用いた実証的歴史研究をその方法とする。使用する史料は、オスマン帝国末期からトルコ共和国初期にかけて著された歴史書・歴史教科書が中心であり、それに加えて、オスマン総理府公文書館および共和国公文書館に所蔵されている文書史料も利用した。また、公定歴史学成立当時の新聞に掲載された関連記事も、重要な史料として利用した。

(2) 史料収集

本研究の遂行に当たっては、対象とする歴史書・歴史教科書を、版の違いも含めて徹底的に収集した。版によって、内容に微妙な、しかし重要な修正がくわえられている場合もあるからである。

トルコ共和国においては、歴史教科書は一般に保存価値が認められておらず、図書館に所蔵の無いことも少なくない。そのため、教科書の網羅的な収集は困難を伴ったが、古書店での収集やヨーロッパの図書館(ライデン大学図書館、大英図書館、フランス国立図書館など)における収集活動によって、本研究で必要とするテキストの9割以上を収集できたものとする。

4. 研究成果

(1) オスマン帝国末期の歴史叙述

本研究によって、公定歴史学に先立つ時代であるオスマン帝国末期の歴史学・歴史教育の状況について、タンズィマート期・アブデュルハミト二世期・第二次立憲政期のそれぞれの特質を明らかにすることができた。

まずタンズィマート期の歴史教科書(代表的な作品として、サーティウによる小学校用教科書『要約オスマン史』)は、空間の取り方や注の利用など、形式こそ新しいものの、

その内容に新規性を確認することはできず、基本的には前代の王朝史の継続と位置付けることができる。

つぎにアブデュルハミト二世期であるが、基本的にタンズィマート期の性質を受け継いでいる(代表的な作品は、イスマイル・ハックの小学校用教科書『小オスマン史』)。しかし、より君主への忠誠心の育成が強調された内容であり、形式的にもより進展がみられる。

最後に、アブデュルハミト二世の専制政治が終わった後に始まる第二次立憲政期においては、君主の権威が解体され、国民=トルコ民族としての一体性が強調されるようになった。ここで初めて「国民史」といえる内容を獲得することになる。形式面においても、読者に配慮した工夫が一層行われるようになった(代表的な作品として、フアト・キョプリュリュの『国民史』)。

(2) トルコ共和国公定歴史学

トルコ共和国の公定歴史学については、その重要性にもかかわらずほとんど分析の対象となっていない「トルコ史概要草稿」シリーズの全ての刊を収集することに成功し、その分析を進めることができた。

「トルコ史概要草稿」は、一部に極端に変更した論考を含むものの、なかには非常に実証的で、現在の研究者の目から見ても水準の高い論考を含んでいた。これまでの先行研究は、公定歴史学の偏向性を強調し、学問的価値がないと断罪する論調のものが多かった。しかしながら、多義的な性格を持っている「草稿」を分析した本研究は、公定歴史学の位置づけに一定の修正を迫るものと言えるだろう。

本研究の成果によって、ナショナリズムの観点から、トルコ共和国においてはいわばタブーであった公定歴史学について、一定の研究成果を収めることができたと考えられるものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

小笠原弘幸、オスマン帝国タンズィマート期(1839-1876年)における歴史教科書、史淵、査読無、152号、2015、107-133

〔学会発表〕(計3件)

小笠原弘幸、公定歴史学と教科書 - トルコ共和国における「正史」と歴史教育、九州史学会、2015年12月12日、九州大学(福岡市)発表予定

小笠原弘幸、「愛国」なき国民史-オスマン

帝国-アブデュルハミト二世専制下における歴史教科書の分析、日本中東学会第29回年次大会、2013年5月12日、大阪大学(大阪市)

小笠原弘幸、オスマン帝国タンズィマート期における歴史教育と歴史教科書、第54回日本オリエント学会、2012年11月25日、東洋大学(東京都)

〔図書〕(計2件)

小笠原弘幸、東京外国語大学 AA 研、近世イスラーム国家史研究の現在、2015、359-388(「タンズィマート期・アブデュルハミト二世期に作成された歴史教科書」を担当) 刊行予定

小笠原弘幸、昭和堂、秋葉淳・橋本伸也(編)『近代・イスラームの教育社会史 オスマン帝国からの展望』、2014、165-185(「歴史教科書に見る近代オスマン帝国の自画像」を担当)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

公益財団法人 東洋文庫 研究部 イスラーム地域研究資料室(TBIAS)ホームページ内：「オスマン帝国史料解題」のなかの「修史官年代記」(<http://tbias.jp/ottomansources/vakanu-vis-tarihi>)および「地理書」(<http://tbias.jp/ottomansources/cografya-literaturu>)の項目を担当

6. 研究組織

(1)研究代表者

小笠原 弘幸 (OGASAWARA, Hiroyuki)
九州大学・人文科学研究院・准教授
研究者番号：40542626

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：